

のんのんののさま

■ 楽曲データ

歌詞：三橋あきら 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：

初演：－

初出：－

管理番号：M1128

■ 創作の経緯

創作の経緯等は不明。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第1巻収録

底資料：『仏教聖歌』 天台宗務庁社会部 1972年

比較資料1：『仏教讃歌集 こどものうた』 浄土真宗本願寺派出版部 1976年

比較資料2：『月別による讃仏歌集』 総本山知恩院浄土宗務所 1965年

比較資料3：『仏教保育聖歌集』 すずき出版 1974年

比較資料4：『幼児向け仏教讃歌 ほとけのこどものうた』 本願寺出版社 1996年

比較資料5：『佛教讃歌 こどものうた』 本願寺出版協会 1973年

比較資料6：『仏教保育名曲集』 全音楽譜出版社 1960年

校訂の詳細：特になし

■ 解説

子どもの生活は、歌に始まり歌に終わります。もし園の一日を歌で綴るとしたら、朝のごあいさつの歌から外遊びの歌、お弁当の歌、お片付けの歌（水道の栓を閉めようという歌も！）、さよならの歌まで、保育内容のほとんどをカバーできることに気づくでしょう。これらの曲は、遊びの時間に区切りを持たせたり、良い習慣を身につけさせたりするなど実際的な役割が大きく、そのため簡潔に、ごく平易に書かれています。四季折々の行事歌や仏教儀式、式典で用いるフォーマルな性格の讃歌と比べると、地味な印象は否めませんが、こうした小さな仏教讃歌が、実は子どもたちの成長を陰で支えているのだと私は思っています。

《のんのんののさま》は、わずか8小節の仏教讃歌です。メロディのやさしい語り口が、歌う人の懐にすっと入り込み、心をひとつに束ねてしまう不思議な力があります。本来は、お仏参のために作られたのかもしれませんが、ほんの数秒の「間」があれば歌える長さですから、気持ちを落ち着かせたいとき、先生のお話を静かに聞く場面などで是非活用してください。

◆作詞・作曲者について

本多鉄磨（1905～1966）の作品です（三橋あきは作詞時のペンネーム）。自坊内に開設した幼稚園の園長として、多くの子どもたちと接していた本多は、日々の保育に必要な歌とはどんなものであるかがよくわかっていたのでしょう。園運営の傍ら、次々と実用的で楽しい曲を生み出していきました。これらの作品は、今日まで幼児向け仏教讃歌のスタンダードとして愛されています。

本多と旧知の仲であった児童文学者の高橋良和は、本多の音楽性について「ややもすると暗い、そして陰性の伴う仏教音楽の世界をして、生活のなかに溶け込むような美しさがある」と高く評価しました（『仏教福祉』第6号、1978年1月発行）。

◆演奏のヒント

冒頭に「おめめをつむり」とあるように、内省を促す静かな曲です。子どもは、歌という声と声を張り上げてしまいがちですから、一番を先生が先導して歌い、態勢が整ったところで二番を全員で歌う、という形にしてもよいでしょう。また、マ行、ナ行の言葉の連なり（おめめ、のんのんののさま等）が、ゆるやかなメロディとともに円やかな雰囲気を作り出していますので、一度は先生の優しい声で歌って子どもたちに聞かせてあげてください。

ピアノ伴奏は、6小節目の左手に出てくるミ♯が印象的です。飾りの音ですが、さりげなく陰影がつくように弾いてみましょう。

◆楽譜・音源について

音源は、CD『ののさまといっしょ ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：石川紀久子（元・本願寺仏教音楽・儀礼研究所〔現・浄土真宗本願寺派総合研究所〕委託研究員）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 79（保育連盟機関誌『まことの保育』第683号収録）を加筆・修正のうえ、転載。